

Space Japan Review Executive Comments

元 NEC 会長の関本忠弘 国際社会経済研究所理事長には通信分野での最高の名誉ある IEEE Metal of Honor を受賞され、6月19日米国カンサス・シテイにて受賞式が行われた、受賞の理由は The “pioneering contributions to digital satellite communications, promotion of information technology R&D, and corporate leadership in computers and communications.” であり情報通信分野のノーベル賞に匹敵する名誉ある賞である。そこで AIAA Japan Forum の初代会長でもあった氏に寄稿頂いた。



IEEE Metal of Honor を受賞して祝福される関本理事長

IEEE Metal of Honor を受賞して

株式会社 国際社会経済研究所
理事長 関本 忠弘 (初代 AIAA Japan Forum 会長)



自分の頭の良さに自信があったわけではない。小学校に通うことが自分に与えられた道であるというだけで毎日小学校に通った自分であった。身体も決して頑健でなかったし、欠席も少ない方でもなかった。ただ真面目に登校するのが自分の務めだと信じて疑わなかった自分がそこにあった。課目としては国語よりも理数科に何となくなじむ程度の自分であったと思う。というのも今を去る70年も前の話だからそんなに明白におぼえていよう筈もない。ただ趣味といおうか草野球は小学2年生の頃から熱心に練習もし、試合もした。才能があったという訳ではなく、取り巻く友人のかもしれない雰囲気によるものであった。従って帰宅後の勉強をそう熱心にしたわけではない。

私の家の職業は商家であった。しかもそれも料理屋であった。このことは私の父としては中学に進学させる時の選択肢としては自ら商業の方向に受験させようとする事となった。小学生の私は特にそれに逆らう気持も持ち合せなかつ

た。今にして思えば昔の小学生には“末は大臣か、大将か”という冗談ともいえる夢はあっても、細かい人生の設計図を描く雰囲気はそうきついものではなかったと思う。

昭和 14 年の私の中学入試の際の文部大臣は荒木 大将という軍人で、身体の弱きものは非国民であるという信条を持った人であった。そのためもあって、私の県立商業学校への入試は見事に失敗することとなった。

その結果、第二次候補として野球の名門滝川中学を受験してやっと中学生となり得たのである。そのことが私の人生の第一の転換点になったと思う。

普通の中学だから特に特別の課目に重点を置くことがなく、まんべんなく授業を受けられた。その頃から理科・算数のちからが国語・漢文よりも優れていることを私の成績が示してくれた。その結果、中学から旧制高等学校への方向は父を含めて「理科」の方向へと決まっていたのである。もちろんそうは言っても色々な曲折があった。当時のルールで決められていた中学四年終了で旧制高等学校への受験資格が得られた。そして幸にも四年終了でもって旧制姫高高校への入学を果すことが出来たのである。

姫高の理科甲類のコースをとりながら幸いにも卒業時の成績は 200 数十名中 No.1 をとり得た。そして指導教官の指導のもと東京帝国大学理学部物理学科に入学することとなったのである。これまた人生の第二転換期であった。理学部物理学に入った学生の約 8 割は理論物理を志す。私もまたその 1 人ででもあった。将来はしかるべき論文を書き、ゆくゆくはノーベル賞獲得を夢みるものと言われている。しかし理論物理の道はそんなに甘いものではなかった。時間の経過の中で 80%の学生が自己の能力の不足を悟って理論物理の途からはずれ去り、いわゆる実験物理のテーマをとることとなる。

私もまたその道を辿り「真空管材料」の研究をテーマとして取り上げることにした。そして突き進みゆく第三の転換点は昭和 23 年 2 月に現れ出た。戦後のことで多くの人々が解雇される中においても N E C は将来のことを慮り、新入社員 20 名を採用することとなった。当然のことながら競争率は高かったし優秀な人材が受験したと思われる。入社試験での質問は「君は何故、材料研究希望をするのか？」であった。常日頃から厳しく人生を見つめて来ていた訳もなかった私にとっては当然のことながら正しい答を用意していたわけではない。しかし、何としてでも入試に合格せねばならぬという立場にたって、いわゆる追い詰められた時の瞬発力から出た答は「材料を制するものは技術を制す」という言葉であった。あれから 50 年以上の月日が流れ、ハード技術の進歩は目を見はるものがあるが、私はこの時瞬間的に追い詰められながら宣言したこの言葉は、けだし天下の名言であったと思う。

世の中は思いにならぬものである。天下の名言をはきながら入社した私にはついに材料研究の機会は巡って来なかったのである。上司から与えられた研究題目に追われながら、また自己研究の名のもとに勉強したサイバネテックス理論・また情報理論の勉強が、今回の IEEE Medal of Honor の賞につながる Digital Communication の研究とその応用、アドバンス・デジタル・サテライト・コミュニケーションの研究開発の成功につながるとは夢想だにしなかったことである。そして通信システムのデジタル化・またデジタル計算機の発展が限りなく進みゆく集積回路 (I C) の発展と相成って、Computers and Communications の融合、すなわち C & C (Integration of Computers and Communications) の扉を力強く開くこととなったのである。

そして Internet の世界を実現したのである。正にデジタル化技術によって天

上からも海底の一隅からも情報信号は地上にはりめぐされた光ファイバーの network と相対して、無限に近いデジタル信号をやりとりする時代を現実化するとともに、情報処理技術の大展開をもたらした C & C システム、すなわち人工しもべを出現させたのである。

この夢こそ 1937 ~ 38 年頃に天才 Mr.Reeves の画いた夢ではなかったのではあるまいか、そのような時代を画する仕事は偶然と必然の織り成す中で、私に与えられたのは何物にも変えがたい喜びがある。 以上

以下は IEEE が関本博士の受賞を報じた内容を転載したものである。

TADAHIRO SEKIMOTO TO RECEIVE 2004 IEEE MEDAL OF HONOR

Former NEC chairman recognized for seminal work in digital and satellite communications

PISCATAWAY, N.J. -- December 2003 – The IEEE, the world's largest technical professional society, has named former NEC Chairman Tadahiro Sekimoto as recipient of the 2004 IEEE Medal of Honor. The award celebrates Sekimoto's "pioneering contributions to digital satellite communications, promotion of information technology R&D, and corporate leadership in computers and communications." He is widely credited with turning NEC into a worldwide technical giant that excels in a wide spectrum of modern technology.

The IEEE Medal of Honor, the highest award given by the IEEE, is bestowed upon individuals for their exceptional contributions or extraordinary careers in any IEEE field of interest. The award is sponsored by the IEEE Foundation. It comprises a gold medal, bronze replica, certificate and cash honorarium. Sekimoto will receive the Medal at the annual IEEE Honors Ceremony in Kansas City, Mo., in June 2004.

For more than 50 years, IEEE Life Fellow Sekimoto has been key to NEC's digital communications research efforts. At the frontier of digital technology, he designed early pulse-code modulation (PCM) equipment as well as coding and decoding circuitry, and

contributed to the solution for network synchronization. His seminal work in digital and satellite communications formed the cornerstone for modern communications systems.

In the late 1960s, in response to the challenge of how to use multiple satellites to provide service to many points around the world, Sekimoto developed a time-division multiple access (TDMA) system and an automatic routing system. Not only did his work have a huge impact on satellite communications, but these technologies also formed a foundation for cellular telephony decades later.

Since his election to NEC's Board of Directors in 1974, Sekimoto has risen steadily through the executive ranks to president in 1980 and chairman of the Board in 1994.